

子宮頸がんの原因はHPV

子宮頸がんの発生にはHPV（ヒトパピローマウイルス）と呼ばれるウイルスが関わっています。**HPVは主に性交渉で感染**し、子宮頸がん患者さんの90%以上でHPVの感染が確認されています。

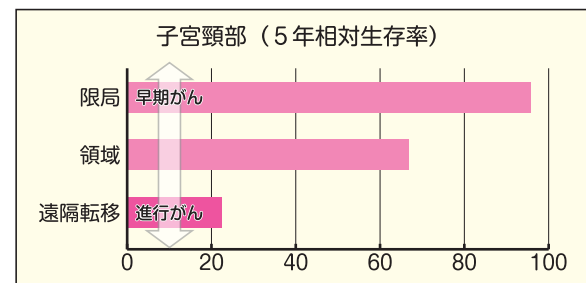
早期発見が重要

限局（早期）であれば治療で救える可能性（相対生存率）は95.7%と高く、病気が進むごとに、領域 66.8%、遠隔転移 22.5%と治療で生命を救える可能性が減少しています。

子宮頸がんは、早期に発見すれば治療で救える可能性が高いですが、ごく早期のものを除いて子宮の摘出が必要となることがあります。

また、進行してしまうと、子宮だけでなく、周辺の臓器も取り除くことになります。

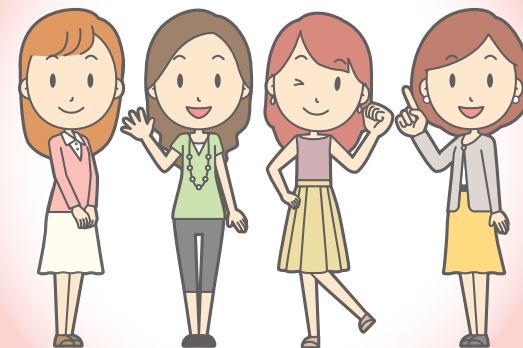
早期発見、早期治療のためには2年に1回の子宮頸がん検診が必要です。



出典：全国がん罹患モニタリング集計 2009-2011年生存率報告 (国立研究開発法人国立がん研究センターがん対策情報センター, 2020)

20歳からはじめる 子宮頸がん検診

若い世代にかかりやすい子宮頸がん
20歳からは2年に1回
子宮頸がん検診を受けましょう!



厚生労働省HP

子宮頸がんとHPVワクチンについて
もっと詳しく知りたい方はこちら



国立がん研究センター がん情報サービス

子宮頸がんについて
もっと詳しく知りたい方はこちら



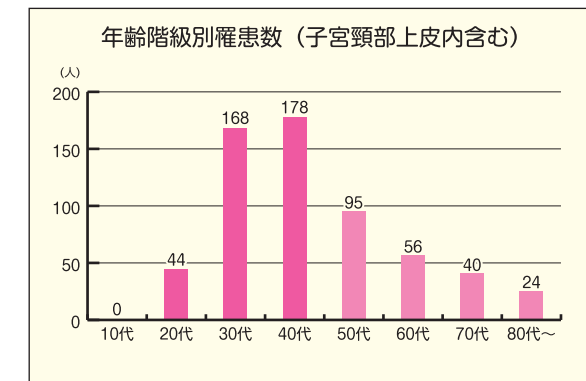
発行: 岐阜県健康福祉部保健医療課

令和6年3月

岐阜県

20代、30代の 若い世代が「がん」になる

20代から子宮頸がんになる人は増加していき、40代にピークを迎えます。



出典：岐阜県のがん登録2019年次集計結果

若いからがんにならないということはありません。

むしろ、子宮頸がんは20代、30代の若い世代に多いがんです。

子宮頸がんを予防しよう

子宮頸がんはだれでも発症する可能性のあるがんですが、適切に行動すれば予防できるがんでもあります。

予防のためにできることは2つあります。

HPVワクチンの接種と**定期的な子宮頸がん検診の受診**です。